

# 街道の湯

Kaidou no yu  
(新潟県湯沢町)



「スノボの聖地」「バックカントリーの聖地」と呼ばれているスキー場がある。かぐらスキー場のことである。かつては、かぐら、みつまた、田代の3つのエリアで構成されたスキー場であったが、今はひとまとめにされているようだ。なぜ、「スノボの聖地」「バックカントリーの聖地」なのか。20年ぶりくらいに行ってみてわかった。圧雪していない斜面が多く、積雪が豊富だからだ。スノボだけでなく、スキーヤーもファットスキーを履いている人が圧倒的に多い。

そう言えば、かぐらスキー場は、昔から神楽峰など山岳スキーへの玄関口であった。私も一度だけ会社の山岳部の人たちと山に入ったことがある。ただ、どこをどう滑ったのかは全く覚えていない。今日もゲレンデトップからはコース外滑走のシュプールがあちらこちらに見える。外国人のコース外滑走狙いも少なからずいるようだ。

そんなかぐらスキー場で半日スキーを楽しんだ後、今回紹介する温泉である街道の湯へやってきた。越後湯沢では共同浴場の温泉巡りができるようになっており、山の湯、駒子の湯、岩の湯、街道の湯、宿場の湯の5つの温泉が利用可能だ。岩の湯は以前(2005年)紹介しており、今回は第2弾として街道の湯を紹介する。

街道の湯はかぐらスキー場から湯沢インターへ向かう国道17号線沿いの道の駅の中にある。外観を観ると何やら白い布が多数張られている。外壁に雪がこびりつくのを軽減するためか、強風を避けるためであろうか。

中に入ると券売機があるので、チケットを買ってフロントに差し出す。脱衣室には脱いだ物を入れる棚が48個、貴重品ロッカー(100円硬貨返却式)が24個ある。洗面台は4個あり、無料で使用できるド

ライヤーが3個ある。

浴室には洗い場10か所、内風呂、露天風呂があるのみだ。洗い場は5か所がブースのようになっている。他の5か所の洗い場は露天風呂への出入口付近にあり、出入口には風除室がないため、風が強い冬はかなり厳しい条件になるであろう。内風呂の浴槽は定員20人ほどでやや熱め、露天風呂は定員10人ほどで適温である。露天風呂は完全に露店というわけではなく、建物の庇（軒）の下にある。豪雪地帯の湯沢ならではと言ったところか。また、露天風呂の底には丁寧に平らな岩が敷き詰められており、足の裏が痛くなることはない。

露天風呂で痛い足腰をストレッチする。お気に入りの場所は、湯が注ぎ込んでいる場所の右側隅にある岩の椅子だ。露天風呂は水深があるため、この椅子に座ると丁度良い塩梅になる。雪景色や、軒下の木の梁を眺めながら、今日の滑走を振り返る。

ちなみに、街道の湯はアルカリ性単純温泉で、筋肉もしくは関節の慢性的な痛みまたはこわばり（関節リウマチ、変形性関節症、腰痛症、神経痛、五十肩、打撲、捻挫などの慢性期）、運動麻痺における筋肉のこわばり、冷え性、抹消循環障害、胃腸機能の低下（胃がもたれる、腸にガスがたまるなど）、軽症高血圧、耐糖能異常（糖尿病）、軽い高コレステロール血症、軽い喘息または肺気腫、痔の痛み、自律神経不安定症、ストレスによる諸症状（睡眠障害、うつ状態など）、病後回復期、疲労回復、健康増進などに効くという。

風呂上がりに道の駅でお土産を物色する。お勧めは、日本酒。珍しいものではスパークリング日本酒があるが、さすがに米処だけあって、おかき、まんじゅうなど米を材料にした様々な商品が陳列されている。

駐車場に戻ると、天気はまるで春。そう言えば、明日から3月である。本来ならまだまだスキーシーズンが続くはずであるが、今シーズンはかつてないほどの異常な暖冬で、雪も少ない。加えて足腰が痛く、快適なスキーができそうにない。さらに、コロナウィルス騒ぎのせいで、毎年参加している業界のスキー大会は中止に追い込まれた。このままシーズンが過ぎ去っていくのが惜しい。

## DATA

名称	街道の湯
所在地	新潟県南魚沼郡湯沢町三俣 1021
電話	025-788-9229
営業時間	10:00~21:00（最終受付20:30）
定休日	火曜日（祝日、年末年始、お盆期間は後日振替）
入浴料	大人（中学生以上）600円、小人（4歳~小学生）250円、3歳未満無料
サウナ	なし
サウナ内のテレビ	なし
取材日	2020年2月29日（土）
取材	銭湯愛好会東京支部